授業概要

『源氏物語』桐壺巻を、受講生の発表形式で講読します。

『源氏物語』は、平安時代中期に成立した長編物語です。日本古典文学史上屈指の名作に数えられ、現代においても、文学のみならず、映画・ドラマ・舞台・漫画といった、さまざまな媒体に影響を与え続けています。本授業は、その冒頭にあたる桐壺巻を味読しつつ、古典文学作品の研究方法をも学ぶことを目標として進めます。

授業計画

第 1 回	今後の授業の進め方について
第 2 回	『源氏物語』とその時代について
第 3 回	作者・紫式部について
第 4 回	『源氏物語』の概要について
第 5 回	『源氏物語』の研究史について
第 6 回	発表資料の作り方、口頭発表の仕方
第 7 回	桐壺巻を読む（発表と質疑）①
第 8 回	桐壺巻を読む（発表と質疑）②
第 9 回	桐壺巻を読む（発表と質疑）③
第 10 回	桐壺巻を読む（発表と質疑）④
第 11 回	桐壺巻を読む（発表と質疑）⑤
第 12 回	桐壺巻を読む（発表と質疑）⑥
第 13 回	桐壺巻を読む（発表と質疑）⑦
第 14 回	桐壺巻を読む（発表と質疑）⑧
第 15 回	半期のまとめ
第 16 回	期末テスト

到達目標

- ①『源氏物語』全体の概要、および桐壺巻の内容を理解する。
- ②口頭発表の方法や発表資料の作り方を習得する。
- ③上記①②を通して、国語科教員としての知見を身につける。

履修上の注意

遅刻・途中退出・私語・携帯電話やスマートフォンの使用は慎むこと（迷惑行為が認められた場合は退室していただきます）。

授業は発表形式で進めるため、受講生は一人一回、必ず発表を担当します。また、発表後には質疑応答の時間をもうけます。主体的な学習意欲をもって授業に臨み、積極的に考え、発言してください。

予習・復習

予習：次回扱う箇所を下読みし、分からない語句などを調べておく。発表担当者は、発表準備をする。

復習：ノートやプリントを整理し直し、分からない箇所は教員に質問するなどして明らかにしておく。

評価方法

授業への参加態度（質疑の際の発言を含む）30%、発表の内容 40%、期末テスト 30%を目安として総合的に評価します。

テキスト

毎回プリントを配布します。

参考文献は、授業の中で適宜紹介します。